

W.A.モーツァルト／ディヴェルティメント ヘ長調 K.138

W.A.モーツァルト（1756-1791）がザルツブルク時代（1756-1781）に作曲したセレナードやディヴェルティメントの多くは、親しい人々のお祝い事など特別な機会のために作曲されたものだった。たとえば、有名な「ハフナー・セレナード」は、モーツァルト一家と親交があったザルツブルクの大富豪、ハフナー家の結婚式前夜祭のために作曲されたものである。18世紀なかばの南ドイツやオーストリアではこうした音楽が流行しており、このザルツブルクでも、大学の教養課程の修了を祝うため、あるいは宮廷の食事のため、といったように種々の目的で新作が提供されていた。いわばオーダーメイドの音楽であり、親しい人々への音楽の贈り物である。

《ディヴェルティメント ヘ長調 K.138》はザルツブルク時代初期の1773年に作曲されたことが明らかになっているが、どんな目的で作曲されたかは不明である。楽器編成についても、ヴァイオリン2、ヴィオラ、バス（チェロまたはコントラバス）の4段譜で書かれているが、これを各パート1名で四重奏として演奏すべきなのか、それとも複数名ずつで弦楽合奏として演奏すべきなのか、議論的的となってきた。現在ではどちらの演奏形態もあり得るという考え方がとられており、本日の演奏は弦5部の合奏のかたちで行なわれる。

曲は4楽章からなり、「ディヴェルティメント=嬉遊曲」の名にふさわしく、晴れやかな気分が広がる。第1楽章はアレグロ、ヘ長調、4分の4拍子。ソナタ形式。主旋律を朗々と歌うのは主に第1ヴァイオリンだが、活発に動く第2ヴァイオリンとのやりとりも楽しみたい。第2楽章はアンダンテ、八長調、4分の3拍子。トリルや細かな音で装飾された旋律がのびやかに歌われ、後半はドラマ性を帯びる。第3楽章はプレスト、ヘ長調、4分の2拍子。 Rond 形式。

楽器編成：弦5部

*スコア上の表記

遠山菜穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。